

戦争遺跡 保存考える

館山、5日からシンポ

貴重写真など 企画展スタート

戦後70年

戦争遺跡保存全国シンポジウム館山大会(戦争遺跡保存全国ネットワークなど主催、館山市など後援)が9月5日から3日間、館山市の県南総文化ホールを主会場に開かれる。今年で19

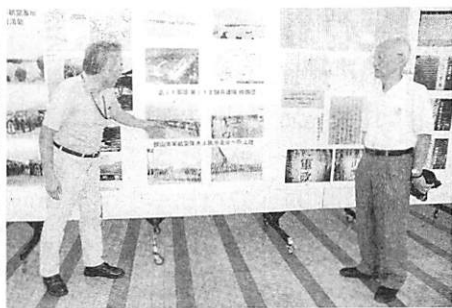


初公開された米進駐軍館山上陸の写真。これまでに日本でみることができた写真には右側の人物は写っていない(米テキサス軍事博物館提供)

回目となり、同市での開催は11年ぶり2回目。26日には、戦中、戦後の貴重な写真などを集めた特別企画「戦後70年展」が、同ホールギャラリーで始まった。

大会初日は、松苗禮子実行委員長による語り「青い目の人形」で幕開け。河正雄・韓国光州市立美術館名誉館長による記念講演に続き、パネルディスカッション「戦跡と文化財を活かしたまちづくり」が行われる。

2日目は特別分科会「米占領軍の館山上陸と直接軍政／証言者のつどい」などが



県南総文化ホールで始まった特別企画「戦後70年展」

開かれる。最終日は野外活動が行われる。

70年展では、写真や資料200点が展示されている。大会現地事務局を務めるNPO法人安房文化遺産フォーラムが、米テキサス軍事博物館から提供を受けた米進駐軍・第112騎兵連隊の館山占領上陸写真などが初公開されている。このうちの1枚は、船形山をバックに米進駐軍が館山航空隊水上班滑走台から上陸する有名な場面だが、従来

国内で見ることができた写真と比べ広範囲が写っており、トリミングされていないことがわかった。

大会には全国各地から約300人の参加を見込んでいる。参加費は1日券1000円、2日券が2000円。野外活動は別料金で、要予約。問い合わせは戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局(026・228・8415)か、安房文化遺産フォーラム(0470・22・8271)へ。